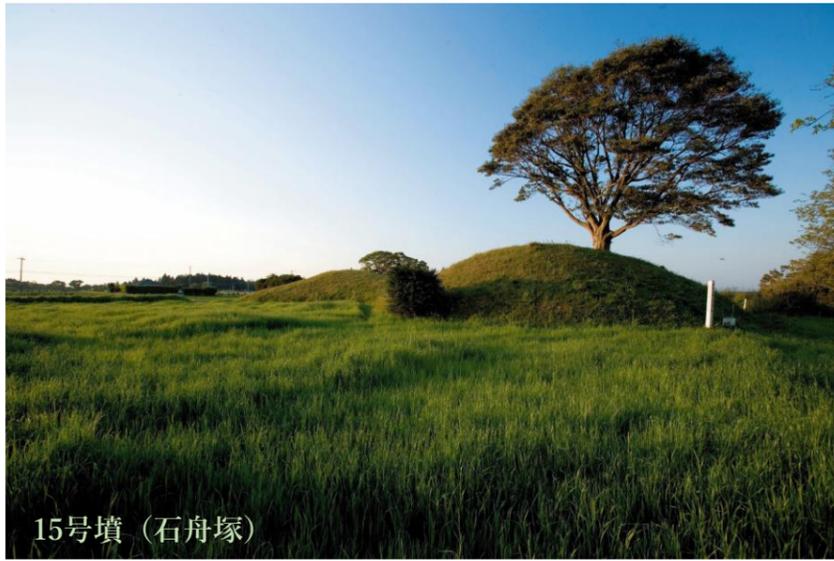


高鍋町の先賢と文化財



15号墳（石舟塚）

持田古墳群

国指定史跡（昭和36年〈1961年〉指定）

「古代人のモニュメント—台地に絵を描く 南国宮崎の古墳景観—」
日本遺産認定（令和3年〈2021年〉）

持田古墳群は、前方後円墳9基・帆立貝形古墳1基・円墳75基の総数85基からなる古墳群で、古墳の内部構造や副葬品などから、4〜6世紀に築造されたものと推定されています。高鍋町の西から東へ流れる小丸川左岸の丘陵地一体、標高約50mの台地と、標高5m前後の平野部の沖積地に位置しています。昭和36年（1961）国の史跡に指定されました。また、令和3年（2021）には、日本遺産の構成文化財に認定されました。

持田古墳群 | Mochida Burial Mounds

昭和初期の大規模な盗掘
持田古墳群は、昭和4年から5年（1929〜1930）にかけてほとんどの古墳が盗掘を受け、掘り出された遺物（出土品）の多くは県外に流出してしまいました。しかしその後の追跡調査によって、銅鏡や勾玉などの玉類が豊富にあったことが判明しています。



コスモスに彩られた26号墳（山の神塚）

日本遺産に認定

持田古墳群は、西都原古墳群（西都市）、新田原古墳群（新富町）、生目古墳群・蓮ヶ池横穴墓群（宮崎市）とともに「古代人のモニュメント—台地に絵を描く 南国宮崎の古墳景観—」をストーリーとした日本遺産に認定されました。

- ・ 持田古墳群
 - ・ 持田古墳群出土遺物
 - ・ 持田古墳群第15号墳（石舟塚）出土石棺
 - ・ 高鍋大師
- が構成文化財です。

持田古墳群の主要な古墳をご紹介します。

26号墳（山の神塚：やまのかみづか）
台地のほぼ中央に位置する前方後円墳です。墳丘の袖部分はかなり削平（さくへい）消滅）を受けており、現在の墳長は48mあります。26号墳からは、金製の耳環（じかん）や、三葉環頭太刀（さんよつかんとうたち）の柄部（つかぶ）、変形画文帯神獸鏡（へんけいがもんたいしんじゅうきょう）が出土したと伝えられています。古墳の築造は、6世紀と考えられています。

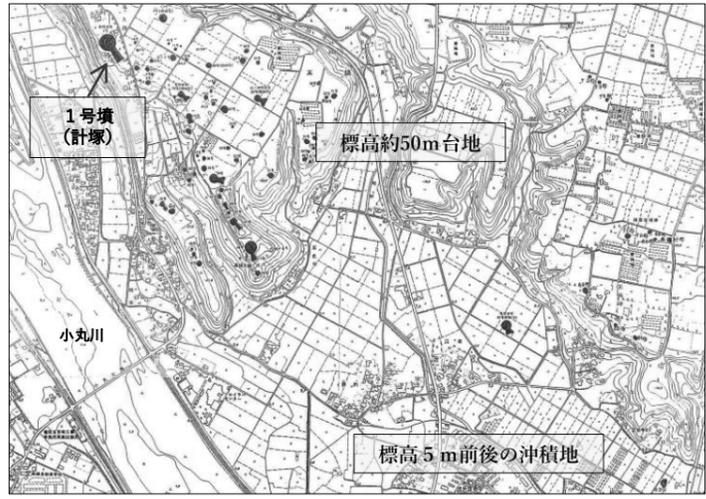


変形画文帯神獸鏡



舟形石棺（高鍋町歴史総合資料館展示）

15号墳（石舟塚：いしふねづか）



持田古墳群の頒布図

1号墳（計塚：はかりづか）

現在高鍋町歴史総合資料館に展示されており、石棺内部の様子や石の質感（阿蘇溶結凝灰岩）を間近で見ることが出来ます。

墳長46mの前方後円墳で、舟形石棺が出土しました。築造は5世紀と推定されています。この石棺は江戸時代掘り起こされ、長い間、後円部墳頂に据えられて露出していたため石舟塚と呼ばれてきました。

持田古墳群の中で最大の前方後円墳で、墳長は120mあり、九州で9番目に大きいものです。築造は4世紀と推定されており、当時九州最大規模の盟主的な前方後円墳であったと推測されています。以前は「天秤塚」と書いて「はかりづか」と呼ばれていたようです。副葬品として、盤龍鏡（ばんりゆうきょう）、獣文縁獣帯鏡（じゅうもんえんじゅうたいきょう）といった銅鏡が出土したと伝えられています。

持田古墳群 | Mochida Burial Mounds



古墳祭での高鍋神楽奉納の様子



古墳の周辺に咲くコスモス

◎高鍋町古墳祭
持田古墳群は「高鍋町古墳を守る会」を中心に、古墳の草刈りが行われています。秋には古墳の周囲に植えられた可憐なコスモスに見守られながら、神事を中心とした古墳祭が開催されます。

○日程：令和5年10月29日（日曜日）
○開催場所：持田古墳群26号墳（山の神塚）前
○お問合せ先：高鍋町教育委員会 社会教育課 文化係
電話0983・23・3326



48号墳と高鍋大師の石像（左端）

48号墳

持田古墳群の前方後円墳の中で最も古いとされており、築造は4世紀と推定されています。墳長は78mあり、墳形は前方部が細い柄鏡形（えかがみがた）をしています。副葬品として、鏡が3面、長さ1mの直刀（ちよくとう）1本が出土したと伝えられています。日向灘を一望できる、台地の先端に位置しています。この48号墳の周辺には、古墳に眠る祖先慰霊のためにつくられた「高鍋大師」の石像群があります。